



## 古代メソアメリカ文明最古の日付が刻まれた 石碑を新たに発見！

名古屋大学大学院人文学研究科の伊藤 伸幸 助教 を団長とするエル・トラピチェ考古学調査団<sup>註1)</sup>は、エルサルバドル大統領府文化庁自然・文化遺産局との共同研究で、古代メソアメリカ文明最古の日付が刻まれた石碑を新たに発見しました。これにより、古代メソアメリカ文明の当時の最先端の文化が、同時期に、南の端まで至っていたことが解明されました。

本研究は、古代メソアメリカ文明の暦の起源を解明するために、重要な資料となることが期待されます。また、今後の調査では、この石碑の残部が見つかる可能性があり、古代メソアメリカ文明の最古の文字文化が解明されることにも注目されます。

この研究成果については、今後、学術雑誌に掲載する予定です。

この研究は、平成 23 年度から始まった三菱財団助成金によるエル・トラピチェ考古学調査を引き継いで、文部科学省科学研究費助成金『メソアメリカ文明の高精度編年体系の確立と巨大噴火インパクトの広域比較研究』（平成 27～28 年度）、『DNA を文化人類学的視点から読み解く研究』（平成 29～31 年度）の支援のもとで行われたものです。

## 【ポイント】

名古屋大学大学院人文学研究科の伊藤伸幸助教を団長とするエル・トラピチェ考古学調査団は、エルサルバドル大統領府文化庁自然文化遺産局との共同研究で、メソアメリカで最も早い時期の日付を持つ石碑を新たに発見しました。

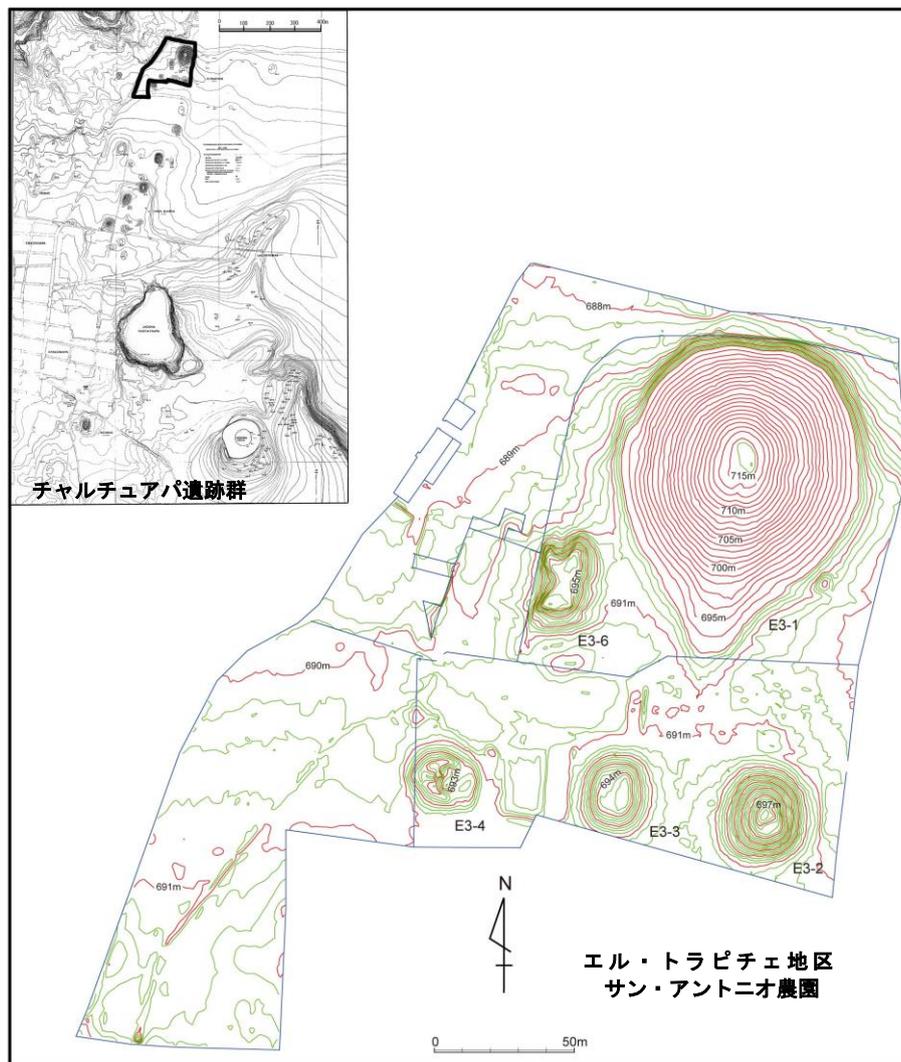


図1 チャルチュアパ遺跡群と調査地

## 【研究背景と内容】

2011年からエルサルバドル共和国で、三菱財団、科研費などの助成金を受けて、チャルチュアパ遺跡群<sup>注2)</sup> エル・トラピチェ地区(図1)で、地下レーダー探査((株)田中地質コンサルタント協力)を使った考古学調査を実施してきた。今回の調査の主な目的は、古代メソアメリカ文明の起源の研究であり、権力の象徴である石彫文化の解明である。

地下レーダー探査の結果に基づいて、発掘区を設定し発掘したところ、そのうちの一つのトレンチ<sup>注3)</sup>から石碑の破片が出土した。



図2 7バクトゥンの日付を持つ石碑破片

#### 【成果の意義】

従来、古代メソアメリカでは、最古とされる日付は長期暦の7バクトゥン<sup>注4)</sup>とされ、石碑4基が見つかっている。今回の石碑破片の発見(図2)は5例目となるものである。また、日付の最初の部分しか発見されていないが、この5例の石碑のうちで最も古い可能性も考えられる。このため、古代メソアメリカ研究では長期暦の歴史を知るための重要な資料といえる。

#### 【用語説明】

エル・トラピチェ考古学調査団：三菱財団助成金を受けて、2012年に伊藤伸幸を団長として、エルサルバドル大統領府文化庁自然文化遺産局との共同研究として結成された。2015年には文部科学省科学研究費助成金『メソアメリカ文明の高精度編年体系の確立と巨大噴火インパクトの広域比較研究』(平成27~28年度)を得て、新たに平成30年までの調査契約を名古屋大学と当該局と結んで考古学調査を継続した。平成29年度からは、『DNAを文化人類学的視点から読み解く研究』(平成29~31年度)の科研費を得て、継続して調査している。

チャルチュアパ遺跡群：エルサルバドル共和国サンタアナ県に位置し、先古典期前期から後古典期(紀元前1000年頃~紀元後1521年)まで続いた遺跡群である。エル・トラピチェ、カサ・ブランカ、タスマルなどの地区に分かれている。

トレンチ：考古学調査で実施する試掘坑である。

7バクトゥン：長期暦は、1日であるキン、20キンの「月」であるウィナル、18ウィナルの「年」であるトゥン、そして20トゥンを1カトゥンとし、20カトゥンを1バクトゥン(約395年)とする単位で構成される。ちなみに、起点となる日は紀元前3114年8月13日であり、7バクトゥンは紀元前354年から紀元後41年の間とされる。